

## 目 次

日本海スルメイカ新規加入量調査 II —資源量予測における有用性と今後の課題— 木所英昭（資源管理部・資源管理グループ）	3
大型クラゲの行動および分布を調べる方法 本多直人（資源環境部・海洋動態グループ）	7
温暖化で日本海の藻場はどうなるのか？ —地域個体群の絶滅と生残について— 坂西芳彦（資源生産部・生産環境グループ） 川俣 茂（水産工学研究所・水産土木工学部・生物環境グループ） 倉島 彰（三重大学・生物資源学部）	9
Topics	13
日本海区水産研究所の出前授業・出前講義について 関根信太郎（業務推進部・業務推進課）	

### 表紙の解説

佐渡島沿岸のツルアラメ群落（写真撮影 資源生産部・生産環境グループ 坂西芳彦）

ツルアラメは北海道の松前小島から九州北岸にいたる日本海の沿岸に広く分布する褐藻コンブ目の海藻で、日本海の固有種です。サザエなどの餌料となる一方で、食用にもなります。深い水深帯（199m）から採集された海藻として有名ですが、現在では、この記録は生育の証拠にはならないとの解釈が出ています。とはいえ、佐渡島でも20 mを超える水深帯での生育を確認するのは、それほど難しいことではありません。高水温の影響が軽減される深い水深帯の海藻群落は、日本海沿岸の温暖化対策に何らかのヒントを与えてくれるはずです。